

経済水道委員会(6月17日) 岡田ゆき子・西山あさみ議員

名古屋城天守閣の調査結果

「木造復元を目指す」に批判続出

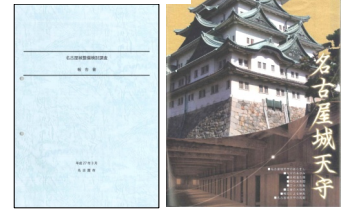
庶民が苦しんでいるときに巨費を投じていいのか

名古屋市は6月17日、経済水道委員会にて、名古屋城の天守閣は「可能な限り早期の木造復元を目指す」という方向性を示しました。しかし、早期の木造復元には多くの問題点があります。

2006年から名古屋市は、天守閣は耐震改修する方向で整備を進めてきましたが、2009年(平成21年)に現市長から「天守閣は木造で本物復元」との号令が出され、耐震改修と木造復元という2通りの整備計画を5年間調査してきました。

調査結果の報告では、天守閣を耐震改修しても40年で再建が必要と述べています。名古屋城の天守閣はSRC工法で56年前に再建されました(計96年)が、同じSRC工法で終戦前に再建された大阪城は84年が経過しています。大阪城では、「平成の大改修」が1995~97年に行われ(工事費は約70億円)、今年度も新し

名古屋市の26年度の報告書と天守閣のパンフ



い耐震基準に照らして診断するための調査費が計上されています。名古屋城も耐震改修と併せて大改修を行えば、長寿命化を図れないのでしょうか。

木造復元では、費用を抑えても約322億円もかかる計画です。岡田ゆき子議員は「市民の暮らしが大変な時に、天守閣に巨費を投じるのは無駄遣い」と指摘しました。

名古屋市が実施したネットアンケートでは、「天守閣を存続させて、耐震補強や改修などを行う」が71%。「天守閣を解体して、木造で復元する」は15.3%しかありませんでした。市民の声もはっきりしています。

2015年6月18日 中日新聞



平成25年度までの調査の経緯

26年調査結果

年度	区分	内容	26年調査結果	
			可能な限り早期の木造復元	耐震改修し概ね40年後の木造復元
22	耐震対策調査	・耐震補強及び改修方法の検討 ・耐震と改修事業費 約29億円	△	×
	木造復元にかかる課題調査	・耐震性、避難安全性、バリアフリー、木材調達等への対応 ・本丸御殿復元工事との重複	△	△
23	天守台健全性調査	・戦災による石材の劣化 ・石垣の孕み出し	○	○
24	木造復元にかかる概算経費・工期算出調査	・概算経費 ①約400億円 全て国産材の節無 ②約320億円 全て国産材の節有 ③約270億円 外国産材、国産材の節有 ・工期 約18年(現天守閣の解体・石垣工事等含む)	△	△
	天守台測量調査	・北面石垣の現状把握	○	○
25	博物館機能の調査	・収蔵品の総数 約5,600点 ・収蔵必要面積 約1,600㎡	○	△
	工事期間中の入場者数への影響調査	・類似施設の入場者数 姫路城 約4割減 平等院 約6割減 ・類似施設の入場料 姫路城 600円から200円減額 平等院 600円から300円減額	○	△
	木造復元にかかる廃棄物の調査	・コンクリート 約7,500トン ・鉄骨鉄筋 約800トン	○	×
	40年間の維持管理費	・現天守閣の耐震及び大規模改修が不要 ・光熱水費及び通常改修費 約12億円	○	×
財源			△	△

注 ○普通、△困難、×極めて困難